

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

La Movado

komuna organo de KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ KJUŜUA ESPERANTO-LIGO, ESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU

Fondita en 1951 N-ro 859 septembro 2022

komuna organo de:

KANSAJA LIGO de ESPERANTO-GRUPOJ
Sone-higasi 1-11-46-204, Toyonaka-si, Ôsaka-hu, 561-0802KJUŜUA ESPERANTO-LIGO
2-190, Sisaido, Tarami-tyô, Isahaya-si, Nagasaki, 859-0407,
MORIWAKI YasumasaESPERANTO-LIGO de TYUGOKU kaj SIKOKU
Kannonmen 14-1, Kusiki, Kitanada-tyô, Naruto-si,
Tokusima-ken, 771-0371, KITANI Tomoko

ENHAVO

第10回アジア・オセアニアエスペラント大会.. 西永 篤史 1-2
楽しい作文教室 (133)
やさしい本の紹介 (3)
楽譜: Surherbeje la viburno ruĝa 草原の赤いカーリーナ
.....Stepan Charnetsky, esprantigis Petro Palivoda 5
対訳: 源氏物語 第45帖 橋姫 (7) ...紫式部/belmonto 6-7
Kajero Libervola: Mi bindas, malbindas, rebindas
..... Tadaŝi JAMADA 8
vidis eksciis sentis: La stacidomo "Jamato-Saidaiĵi"
.....TAKEMORI Hirotoŝi 9
Kurantaj vortoj..... 9
Salono:
..... AIKAWA Setuko 10
La Movado: 広島、奈良の近況等
..... 10-11
Saluto al la 70a Kongreso en Kansajo
.....KITAGAWA Ikuko 12
日本昔話 (17): Unucolulo 一寸法師
..... 島谷 剛 13
Kultura heredajo: 小倉百人一首より
..... 13
Vortkruca enigmo / 作文教室成績
..... 14
Mikspoto / 作文教室課題 / KLEG事務局だより
..... 15
編集ノート
..... 16

今回は釜山! こんなに近くで国際大会があります

10回アジア・オセアニアエスペラント大会

西永 篤史 (日本エスペラント協会国際部長)

第10回アジア = オセアニア・エスペラント大会 (AOK) が、11月3日から6日まで、韓国のプサン (釜山) で開催されます。韓国での開催は20年ぶりで2度目となります。

AOK は、最初はアジア・エスペラント大会 (AK) として3年に1回、世界エスペラント協会のアジア委員会 (KAEM) の主催で、第8回からは主催者がアジア = オセアニア委員会 (KAOEM) となり、第9回からはアジア = オセアニア・エスペラント大会として開催されてきました。

第1回は1996年8月21日から25日まで、中国の上海で「アジアと21世紀」をテーマに開催され、16カ国から486人の登録者がありました。

第2回は1999年8月にベトナムのハノイで、第3回は2002年8月に韓国のソウルで開催され、この時は16カ国から552人の登録者がありました。第4回は2005年8月にネパールのカトマンズで、第5回は2008年2月にインドのバンガロールで、第6回は、この時だけは2年後の2010年6

月にモンゴルのウランバートルで、第7回は2013年4月にイスラエルのエルサレムで、第8回は2016年11月に中国の泉州で開催されました。第9回はアジア = オセアニア・エスペラント大会の名称となって、2019年4月にベトナムのダナンで開催されました。

今年の第10回のテーマは「Novan Vojon por la Esperanto-Movado post Kronvirusa Krizo」(コロナウイルス危機後のエスペラント運動に新しい道を)です。AOKに併せて、第54回韓国エスペラント大会、第4回上海 = ソウル・エスペラントフォーラムも並行開催され、初日午後には釜山外国語大学 (BUFS)、韓国エスペラント協会 (KEA) と共催で国際文化フェスティバルも開催されます。

プログラム

11月3日 (木曜日)

13:00 - 16:00 BUFS、KEA、KAOEM の

国際文化フェスティバル

16:00 - 18:00 分科会
 19:00 - 21:00 運動見本市、親睦と国際の夕べ
 11月4日(金)
 09:00 - 10:30 開会式
 10:30 - 11:00 記念撮影
 11:00 - 12:00 各種分科会 13:00 - 16:00 各種分科会
 16:00 - 18:00 各種講演
 19:30 - 21:00 韓国の夕べ
 11月5日(土)
 09:00 - 12:00 各種分科会
 09:00 - 12:00 第54回韓国エスペラント大会
 13:00 - 18:00 釜山半日観光
 19:00 - 21:00 釜山国際花火大会
 11月6日(日)
 09:00 - 12:00 各種分科会
 09:00 - 12:00 第4回
 上海 = ソウル・エスペラントフォーラム
 14:00 - 15:30 閉会式

釜山国際花火大会

土曜夜の釜山国際花火大会は、毎年100万人以上が観覧する韓国最大規模の大会で、約10万発もの花火が打ち上げられ、対岸の長崎県の対馬からも見ることができる。(ちなみに日本の最多は長野県の諏訪湖祭湖上花火大会で約4万発。)

観光(ekskursoj)

土曜午後の半日観光は、太宗台(テジョンデ)と冬柏島(トンベクソム)の2コースで、それぞれグループに分かれて公共交通機関を利用する予定です。

大会後観光は3日間、慶州市を訪れ、仏国寺、石窟庵、瞻星台、雁鴨池などを観光します。慶州市は新羅王国の古都・金城のあったところで、石窟庵と仏国寺が1995年にユネスコの世界遺産に登録されました。また、2000年には膨大な遺跡と芬皇寺などが慶州歴史地域として、さらに2010年には伝統的民俗村である良洞村が登録され、市内に3件もの世界遺産が存在する「世界遺産都市」です。

会場

釜山を代表するリゾート地として知られる海雲台にある釜山広域市公社のリゾート & コンベンション施設「アルピナ」です。ホームページ(英語)は

<http://arpina.co.kr/arpinaeng/Main.do>

2022.09

参加費・宿泊・食事・観光等の費用

大会参加費は9月15日(木)までの申込の場合は92ユーロ(1ユーロ=145円換算、以下同じレート、で13,340円)または120,000ウォンで、学生・視覚障害者・家族は、50%割引となります。

大会場の「アルピナ」での宿泊を希望する場合は、11月3・4・5日の3泊で、一人あたりの料金が
 2人部屋(ツイン)92ユーロ(13,340円/人)
 3人部屋(トリプル)69ユーロ(10,005円/人)
 4人部屋(オンドルルーム)46ユーロ(6,670円/人)
 また食事も3日昼食から6日昼食まで予約することができます。料金は朝昼夕とも、1食8ユーロ(1,160円)。

半日観光の料金は、太宗台と冬柏島の2コースとも12ユーロ(1,740円)。慶州市3日間の大会後観光は、231ユーロ(33,495円)で、3星ホテルの2人部屋(ツイン)の宿泊費、3日間の食事、交通費、観光施設の入場料を含みます。1人部屋(シングル)利用の場合の追加料金は54ユーロ(7,830円)。

参加申込・大会ホームページ

最新情報、詳細については大会のホームページをご覧ください。

<http://koreaesperanto.cafe24.com/10Azia/content/10AOK>

一番下に、申込のリンクがあります。“reto”を選べば参加申込フォームから直接申し込むことができます。(以下のページに直接アクセスすることも可)

<https://forms.gle/NSHi4TLBCd4JmMN47>

また、“doc”“pdf”を選べばそれぞれの形式の申込書をダウンロードできますので、ご記入の上電子メールに添付してLKKにお送りください。

メールアドレス: kea.esp.2020@gmail.com

参加費などの払い込み

KEAの銀行口座へのウォンでの振込
 KEAのUEA口座へのユーロでの振込
 各国ペラント(日本はJEI)への支払い
 のいずれかを選んで、参加申込書にご記入いただき、その方法でお支払いください。

JEIでの取り次ぎを希望される場合は、各自で参加申し込みのうえ、所定の参加費・料金を「1ユーロ=145円」で円建てに換算して、JEIまでお送りください。取次の締切は9月15日(木)です。



①今日は叔父が来るので長い間留守にできない。

【訳例1】Mi ne povas esti for de mia domo dum longa tempo, ĉar hodiaŭ venos mia onklo. (Lumo)

【訳例2】Hodiaŭ mia onklo venas, do mi ne povas longe foresti. (ikona)

【訳例3】Hodiaŭ mi ne povas malesti longe en mia domo, ĉar mia onklo venos. (Haveno)

「叔父」は onklo (叔父・伯父)、「留守にする」は外出して家にいないことなので for (遠くへ、無い) や foresti (不在である) が使えます。

訳例1、訳例3は「～ので」に ĉar (～なので) を使い、複文で表現しています。ĉar で始まる節は絶対時であって、まだ「叔父」は来ていないので未来形を使っています。

訳例2は ĉar ではなく副詞の do (だから) を使った表現です。venas と現在形を使っているのは、「今日」が何かの決まり事として「叔父」が来ることになっている日だからかもしれません。

訳例3では「留守」に malesti を使っています。「その場にいるべきなのにいない」という意味ですから、「叔父」は重要案件で来訪するのでしょうか。

②私は明日の会議に出席するつもりだ。

【訳例1】Mi intencas ĉeesti en la morgaŭa kunsido. (ikona, Haveno)

【訳例2】Mi intencas ĉeesti al la morgaŭa kunsido. (Lumo)

【訳例3】Mi ĉeestos al la morgaŭa kunveno. (Celejo) ⇨ 解説

「明日の」は morgaŭa です。「会議」には kunsido (会合) や kunveno (集会)、kongreso (大会) などが考えられます。「出席する」は ĉeesti (出席する) が使えます。

「つもり」に訳例1、訳例2は intenci (意図する) を使っていますが、訳例3は単純に未来形にしています。未来形は話者の意図を示すのではなく、話者の考えとして、その事項が本当に起こると思っていることを示します。話者自身の意図に関わらず会議には出ることになるのでしょうか。

③大会の日取りを決めなければならない。

La Movado 859

【訳例1】Ni devas fiksi la daton de la kongreso. (Ivajo)

【訳例2】Ni devas fiksi la datojn de la kongreso. (Lumo)

【訳例3】Ni devas fiksi daton de la kongreso. (Jasuko, Eiko)

「大会」は kongreso でいいでしょう。弁論大会なら oratora konkurso です。

「日取り」はあることを行う日を指すので dato (日付) が使えるでしょう。tagordo (日程) は為すべき仕事や議事などの予定の意味です。JEIのエス日辞典第2版には fiksi の項に tago を「日取り」とした用例があります。この「大会開催日」が記念日になるような特別なものであれば tago も考えられます。「決める」ははっきりと定めるといことなので fiksi ion (定める) や destini ion por io (指定する) が考えられます。

なお、訳例1と訳例2は dato を複数にするかどうかの違いです。この「大会」の開催期間は不明ですし開催開始日と考えれば単数でいいでしょう。

④参加者数を150人として予算を立てたい。

【訳例1】Ni volas fari la buĝeton antaŭkalkulinte, ke la partoprenantoj estos 150. (Ivajo)

【訳例2】Mi volas buĝeti la kongreson por supozeblaj 150 ĉeestantoj. (CA) ⇨ 解説

【訳例3】Mi volas fari buĝeton kun 150 partoprenantoj. (Drako, ikona) ⇨ 解説

「参加者」には aliĝinto (加入者) や ĉeestanto (出席者)、partoprenanto (参加者) などが使えます。予算には buĝeto (予算) や、少し違いますが financa plano (財政計画) も考えられます。

「予算を立てる」は訳例1のように fari buĝeton で表現できるでしょう。訳例2では buĝeti ion (予算計上する) を使っています。この目的語は通常 mono (金銭) や defcito (欠損) など収支に関する語なので、kongreso (大会) は違うと思います。参加の内、ĉeestanto はその場に出席している人で、「不在参加」は morala aliĝo です。

訳例3は「150人として」の部分で Google 翻訳のように kun (～と共に) を使っています。しかし150人と共に予算を立てるのではないので por (～のため) を使う方がいいのではないのでしょうか。

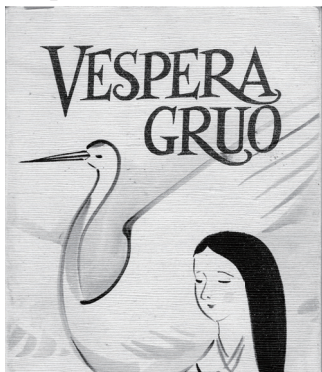
やさしい本の紹介(3)

編集部

844号、854号に続いてのご紹介です。

以前に書いたとおり、どの本がやさしいかはひとりひとり違うのですが、本を買う時やグループ学習の教材を選ぶ時の参考になればと思います。

Vespera Gruo



木下順二作「夕鶴」のエスペラント訳です。木下は民話「鶴の恩返し」をもとに、味わい深い戯曲を書きました。実際に1000回以上も上演されているそうです。

「ばかの与ひょう」

と呼ばれている男が、傷ついた鶴を助けるのが話の発端ですが、この戯曲ではそれより少しあと、与ひょうの家にやってきた女性つうが美しい織物を織り、それが都で売れるという時期になってから幕が上がります。それまでのいきさつは、登場人物のせりふで少しずつ語られます。

このエスペラント版はあくまで文学作品の翻訳であって、初心者読み物として書かれたものではありません。しかし、全体に短いセンテンスのせりふが多く、ストーリーもわかりやすいので、初心者にも読みやすいと思います。また、この本の発行は1982年ですが、古い出版物のわりには活字が大きくて行間に余裕があるのがありがたい。

小型の本なので、持ち歩くにも便利です。

Esperanto tiel parolata エスペラントはこうして話す

エスペラント会話の名手と言われた藤本達生さんの手による会話の本で、日本語との対訳になっています。

第一部は、会話の例文集であると同時に、世界エスペラント大会に初めて参加する人への親切な案内書でもあります。受付でのやりとりに始まって、名札の説明、懇親会、ダンスパーティ、本売り場、世

界エスペラント協会の委員会など、次々に大会の場面が現れ、そこでかわされる会話が書かれています。

大会の場だけでなくどこでも応用できる例文もたくさんあります。たとえば Kie estas necesejo? とか。

読んで損はしない、そんな本です。

第二部は、ある町のエスペラント会に外国からのお客様がやってきて、観光案内をするという設定の会話です。固有名詞はいっさい出てきませんが、どの町のどのお寺かなど、会話から推測できる書き方なので、クイズのような楽しみ方もできます。



Humuro laŭ la skota maniero

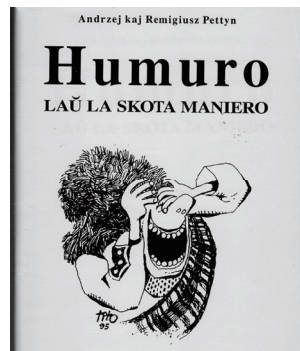
直訳すると「スコットランド式ユーモア」でしょうか。スコットランド人はケチだ、という認識を前提に書かれた笑い話集です。

客観的事実というよりは偏見だろうと思います。この本を読むと、スコットランド人自身が、漫才の自虐ギャグのようなかたちで楽しんでいるようにも思えます。なにしろスコットランド人であるウィリアム・オールドが、ていねいな序文を寄せているのですから。

収められた笑い話は全部で257話。長いものでも1ページ、短いものは2行で完結。気が向いたときに適当にページをめくって読むという楽しみ方ができます。長文を読むしんどさはありません。

後書きを読むと、著者（実際は編者かも）が、学習読み物としても役立つことを意図していたことがわかります。

活字が小さいのが難点ですが、気軽に楽しめる本のひとつです。



Surherbeje la viburno ruĝa (草原の赤いカーリーナ)

poez. k muz. Stepan Charnetsky, el ukraina esperantigis Petro Palivoda

1) Sur-her-be - je la vi-bur-no ru - ĝa kli - nis tris-te sin
2) Ne kli - ni - ĝu, la vi-bur-no ru - ĝa, blan - kas flor' de vi

Mal-ga - ji - ĝis i - al ni-a glo - ra land' Uk-ra - i - ni'
Ne mal-ga - ju, por Uk-ra - i - ni - o es - tas fa - mi - li'

Sed ni ku-ne la vi-bur-non ru-ĝan su-pre-ni-gos Uk-ra-i-nan

ni-an lan-donglo-ran, hej-hej, re-ga - ji-gos ni! re-ga-i-gos ni!

Ой у лузі червона калина
poez. k muz. Stepan Charnetsky

1) Ой у лузі червона калина похилилася,
Чогось наша славна Україна зажурилася.
А ми тую червону калину підіймемо,
А ми нашу славну Україну, гей, гей, розвеселимо!

2) Не хилися, червона калино, маєш білий цвіт.
Не журися, славна Україно, маєш вільний рід.
А ми тую червону калину підіймемо,
А ми нашу славну Україну, гей, гей, розвеселимо!



Surherbeje la vibruno ruĝa (草原の赤いカーリーナ)
poez. k muz. Stepan Charnetsky
esperantigis Petro Palivoda

1) Surherbeje la viburno ruĝa klinis triste sin
Malgajiĝis ial nia glora land' Ukraini'
Sed ni kune la vibrunon ruĝan suprenigos
Ukrainan nian landon gloran, hej-hej, regajigos ni!

2) Ne kliniĝu, la viburno ruĝa, blankas flor' de vi
Ne malgaju, por Ukrainio estas famili'
Sed ni kune la viburnon ruĝan suprenigos
Ukrainan nian landon gloran, hej-hej, regajigos ni!

*viburno: 西洋肝木 (ガマズミ属の白花赤実の低木。ウクライナ語ロシア語でカーリーナ、カリンカ)

El “Rakontaro Genĝi”, 11-a jarcento

45 La Nimfo de la Ponto – Fasi Fime – (7)

源氏物語 第45帖 橋姫 はしひめ

eljapanigis belmonto

Pasante sur la vojo preter plektobariloj el arbetaĵoj de domoj, la ĉevalo premis sub si kaŝitajn akvofluetojn, kies sonon atente regis *Kavoru* esti ne brua, sed la nekovrebla bona odoro el li fluis laŭ vento, kio vekis kelkajn homojn en la laŭiraj domoj, mirigante kiu preterpasas*.

Laŭ proksimiĝo al la celita vilao melankolie aŭdiĝis sono de muzikiloj, ne deĉifreble kio ili estas.

‘Mi aŭdis, ke la princinoj ĉiam ludas tiamaniere, sed ankoraŭ ne aŭskultis eĉ la ludadon de la Oka Princo, kies tekniko estis fame konata. Bona ŝanco gustumi ilin.’

Li eniris en la domon kaj trovis, ke la sono estas el la bivo. La princino agordis ĝin en A-maĵoro kaj ekzerce plektris etan melodion, sed ĝi sonis al liaj oreloj nenormala ĉu pro neordinara loko. La sono de retroludanta plekto sentiĝis pura kaj alloga. Ankaŭ la ludado de la dektri-korda kotoo kun interrompoj aŭdiĝis mirinde gracia.

Li kaŝe sidis por aŭskulti la ensembladon, sed instinkтите de lia odoro venis al li viro ŝajne deĵoranto kun rigora mieno:

“Ho, la Princo servas en la templo dume. Mi sendos mesaĝon, ke vi alvizitis.”

Kavoru respondis:

“Neniam. Ne estos konvene ĝeni lian servadon dum difinitaj tagoj. Mi vizitis plene duŝite. Transdonu mian malĝojon al la princinoj, ke mi vane turnos min al la Urbo. Ilia diro ‘kompatinde’ estos mia konsolo.”

La malbelvizaĝulo ridetis kaj stariĝis:

“Mi perigos viajn vortojn.”

“Atendu momenton.”

Kavoru alvokis lin kaj diris:

“Nun estas ĝojiga ŝanco aprezi ilian fajnan

柴の籬 (まがき) を分けつつ、そこはかとなき水の流れどもを踏みしだく駒の足音も、なほ、忍びてと用意したまへるに、隠れなき御匂ひぞ、風に従ひて、主 (ぬし) 知らぬ香 (か) とおどろく寝覚めの家々ありける。

近くなるほどに、その琴 (こと) とも聞きわかれぬ物の音 (ね) ども、いとすごげに聞こゆ。

「常にかく遊びたまふと聞くを、ついでなくて、親王 (みこ) の御琴 (きん) の音 (ね) の名高きもえ聞かぬぞかし。よきをりなるべし」

と思ひつつ入りたまへば、琵琶の声の響きなりけり。黄鐘調 (わうしきでう) に調べて、世の常の搔 (か) き合はせなれど、所からにや耳馴れぬ心地して、搔きかへす撥 (ばち) の音 (おと) も、ものきよげにおもしろし。箏 (さう) の琴 (こと)、あはれになまめいたる声して、絶え絶え聞こゆ。

しばし聞かまほしきに、忍びたまへど、御けはひしるく聞きつけて、宿直人 (とのぬびと) めく男 (をのこ) なまかたくなしき出で来たり。

「しかじかなん籠 (こも) りおはします。御消息をこそ聞こえさせめ」

と申す。

「なにか。しか限りある御行ひのほどを、紛らはしきこえさせむにあいなし。かく濡 (ぬ) れ濡れ参りて、いたづらに帰らむ愁へを、姫君の御方に聞こえて、あはれとのたまはせばなむ慰むべき」

とのたまへば、醜き顔うち笑みて、

「申させはべらむ」

とて立つを、

「しばしや」

と召し寄せて、

「年ごろ、人づてにのみ聞きて、ゆかしく思ふ御

ludadon de muzikiloj, fama en onidiro dum jaroj. Ĉu estas konvena loko por aŭskulti dum iom, kaŝite? Estos tute bedaŭrinde, se ili ambaŭ ĉesos ludadon je mia senatenta proksimiĝo al ili.”

La viro, tiom ordinara, vidis lin fascina kaj estiminda je la figuro kaj la vizaĝo, kaj respondis:

“Ili ludas matene kaj vespere ĉi tiel, kiam neniu aŭdas. Sed kiam vizitis gasto el la Urbo, eĉ malaltranga, la patro la Princo malpermesis al ili ludi eĉ momenton. Certe li kaŝas siajn filinojn antaŭ la publiko, ke neniu eksciui pri ili.”

Kavoru ridis kaj diris,

“Senefika kovrado. Spite al lia severa kaŝo, oni malkovros ilin kiel la rara ekzemplo en la mondo,”

kaj daŭrigis delikate:

“Tial do, konduku min. Mi ne estas homo flirtema. Mi kredas, ke ili vivas strangaj kaj nenormale superaj.”

La viro diris sian opinionon:

“Tre embarasite. Mi povos aŭ ricevi riproĉon poste, ke mi agis senprudente...”

Bambua heĝo ĉirkaŭis la korton de la princinoj, kun septoj speciale. La deĵoranto kondukis la *Tiŭĵaŭon* kiel iri. En la okcidenta koridoro li regalis ankaŭ liajn akompanantojn.

10. *Kavoru ŝtelvidas la princinojn*

Kavoru puŝis kaj malfermis la heĝan pordon kondukantan al la ĉambro de la princinoj, kaj trovis virinojn sidantaj, rigardantaj la fascinan lunon tra la tre densa nebulo, levinte la bambukurtenon mallonge. Apud la kradfenestro sidis svelta servoknabino en deamelita vesto kaj ĉambelaninoj en la sama stato. Interne de la ĉambro unu sidis duone kaŝite de la kolono, kaj tiu metis la bivon antaŭ si kaj fingrumis la plektron. Jen subite la luno ekbrilis, ĝis tiam kovrita de nuboj. (daŭrigota)

La Movado 859

琴(こと)の音どもを、うれしきをりかな、しばし、すこしたち隠れて聞くべき物の隈(くま)ありや。つきなくさし過ぎて参りよらむほど、みなことやめたまひては、いと本意(ほんい)なからん

とのたまふ。御けはひ、顔容貌(かほかたち)の、さるなほなほしき心地にも、いとめでたくかたじけなくおぼゆれば、

「人間かぬ時は、明け暮れかくなん遊ばせど、下人(しもびと)にても、都の方(かた)より参り立ちまじる人はべる時は、音(おと)もせさせたまはず。おほかた、かくて女(をむな)たちおはしますことをば隠させたまひ、なべての人に知らせたてまつらじと思しのたまはするなり」

と申せば、うち笑ひて、

「あぢきなき御もの隠しなり。しか忍びたまふなれど、皆人(みなひと)あり難き世の例(ためし)に、聞き出づべかめるを」

とのたまひて、

「なほしるべせよ。我はすきずきしき心などなき人ぞ。かくておはしますすらむ御ありさまの、あやしく、げになべてにおぼえたまはぬなり」

とこまやかにのたまへば、

「あなかしこ。心なきやうに後の聞こえやはべらむ」

とて、あなたの御前(おまへ)は竹の透垣(すいがい)しこめて、みな隔てことなるを、教へ寄せたてまつれり。御供の人は、西の廊(らう)に呼びすゑて、この宿直人(とのみびと)あひしらふ。

10

あなたに通ふべかめる透垣の戸を、すこし押し開(あ)けて見たまへば、月をかしきほどに霧(き)りわたれるをながめて、簾(すだれ)を短く捲き上げて、人々みたり。簀子(すのこ)に、いと寒げに、身細く菱(な)えばめる童一人(ひとり)、同じさまなる大人(おとな)などみたり。内なる人、一人柱にすこし隠れて、琵琶を前に置いて、撥(ばち)を手まさぐりにしつゝみたるに、雲隠れたりつる月のにはかにいと明かくさし出でたれば、

(続く)

*referenco al la utao el la utaaro "Kokin"

デジタルものが全盛でも、紙の図書は宝物だ。個人で製本する、といえは敷居が高いように思われるが、意外と簡単。古くなった本などの再生もできる。

Kion signifas bindado? En kafejo aŭ hotelo oni prenas por legi matenan ĵurnalon, kio estas agrafita por ke la folioj ne disiĝu. Tio estas unu simpla bindado.

Ĉu vi ne volas hejme fari vian libron? Skribu, printu kaj bindu. Antaŭ 20 jaroj mia korespondantino Lydia vizitis nin por partopreni japanan kongreson. Post kelkdek ĝojaj tagoj hejmenirinte al Estonio, ŝi rete sendis al ni sian verkon pri sia impreso de japana vivo kaj Esperanto kun multaj koloraj fotoj. Mi aranĝis kaj redaktis ilin kaj elprintis sur papero. Dekoj da broŝuroj estis binditaj per miaj manoj sur la tablo en mia skriboĉambro. Ili estis senditaj poŝte. Vi imagu ŝian ĝojon antaŭ siaj familio kaj geamikoj kun sia libro eldonita el fora Japanio.

Ĝenerale oni kudras paperfaskojn por bindi unu libron, sed mia tekniko por fari librojn estas pli konciza ol konfuza metiista kudrado per fadeno. Mia estas — raspi kaj meti gluon emulsian sur dorson de paperfasko kaj aldoni kovrilon.

En la lasta monato de jaro jen ni havas 12 numerojn de nia organo La Movado por fari jarkolekton. Ĉiu broŝurita foliaro de nia organo estas krampita. Do ĝi oportunas por kolekti kaj bindi. Sur la dorson de kolekto ni metu gluon, kaj premu ĝin aŭ per libro aŭ per ŝtono sur nia tablo. Post kelkaj horoj por sekigi, vestu ĝin per ŝatata kovra papero. Sur la bretaro de Nagoja Esperanto-Centro vi trovas multajn jarkolektojn de La Movado binditaj de mi.

Nun mia iPado enhavas multajn dikajn librojn, vortarojn en Esperanto aŭ en la 2022.09

japana, ne bit-librojn sed paperlibrojn en la formo de PDF, kiuj estas skanitaj de eldonitaj libroj el presitaj paperoj. Aĉetitan libron unue mi malbindas, disigas ĉiun folion, kaj due aŭtomata skanilo kopias fidele ambaŭ paĝojn de ĉiu folio por foto-kopii. Jen do ĉiu enŝutita troviĝas konservata en mia aparato. Kaj sur la ekrano mi legas libron aŭ konsultas vortarojn. Iam mi enskribas literojn aŭ strekojn kolorajn per cifereca skribilo.

Tamen, forrestas sur la tablo elskanitaj paĝoj vanaj, miaj manoj ne ripozas sed daŭrigas laboron por rebindi ĝin. Rebindi estas simple kaj facile por glui kaj revesti ĝin per la origina kovrilo. Mia libroŝranko bonvenigas la renaskitan vortaron.

Sekvas do “ripari” post la vortoj — bindi, malbindi kaj rebindi. Estas granda laboro ripari malnovan libron. Ĉar mi devas plenumi la laboron por ke oni ne rekonu nove aldonitan parton. “Kaj neniu alkudras flikaĵon el nefulita drapo sur malnovan veston, ĉar la plenigaĵo forprenas de la vesto, kaj pli malbona ŝiraĵo fariĝas.” Iam aŭtodidakto portis al mi sian dikan vortaron parte rompitan. Kun granda intereso mi prenas ĝin. Kiamaniere ripari ĝin? Kia estas rimedo? Ripari ne signifas nur rebindi solidan libron. Oni deziras ne nur fortikon sed ankaŭ belan elegantan rezulton, kiu montras sin vundita. Tiam bezonataj estas kutimaj iloj kaj sufiĉe konataj materialoj el papero, fadeno kaj tuko kaj tempoj trankvilaj.

Bindi unu libron similas al pentri unu pentraĵon. Bone bindita libro estas altvalora trezoro por ke oni admiru la libron. Bindisto deziras montri sian laboraĵon.



vidis eksciis sentis

La stacidomo “Jamato-Saidaiĵi”

TAKEMORI Hirotoŝi (Nara)

La stacidomo “Jamato-Saidaiĵi” (大和西大寺駅) iĝis fama tutlande ĉar la eksĉefministro estis pafmortigita antaŭ tie, sed ĝi estis origine konata kiel transportcentro. La Kintetsu*-Nara-linio kaj la Kioto-linio/Kaŝihara-linio kruciĝas sur la tera nivelo. Ĝi estas grava relvoĵoreto en la urbo Nara kie Kintetsu-linioj etendiĝas en kvar direktoj, okcidenten, orienten, norden kaj suden, oni povas veturi

al la stacidomo Osaka-Namba, la stacidomo Kintetsu-Nara, la stacidomo Kioto, kaj la stacidomo Kaŝiharaĵingu-mae. De la teraso ene de la stacidomo, oni povas vidi, ke la Nara-linio kaj la Kioto-linio ofte kruciĝas reciproke, kio estas tre malofta. La liniojn kaj la lokon atentigas multaj trajno-amantoj.

Ĉar ekzistas multaj trajnoj al Kioto kaj Osako, fervojaj transirejoj proksimaj de la stacidomo ofte ne malfermiĝas, kaj trafiko ofte estas stagna.

Vi povas vidi kiel la trajnoj venas kaj iras de Jutubo sube.

<https://www.youtube.com/watch?v=IiuQ-OpuenA>



* Kintetsu (japane: 近畿日本鉄道株式会社 [kinki-nippon tecudoo kabuŝiki-gajŝa], mallongite: 近鉄 [kintetsu]) estas japana privata fervoja kompanio en Kansajo kaj Ĉubu. Tuta longo de linioj de Kintetsu estas 501,2 km. Ĝi estas la plej longa el ĉiuj japanaj fervojaj kompanioj, ne apartenantaj al la Grupo JR.

Kurantaj Vortoj

コーフボール korbopilado aŭ nederlanda korbopilado
ペロブスカイト太陽電池 perovskita sunĉelo
月周回有人拠点 platformo-pordo sur luna orbito



Pri la teksto de

Salono “Kanto de la kvar sezonoj”

AIKAWA Setuko (Kioto)

Okaze de la 70-a KEK
(Kongreso de Esperantistoj
en Kansajo) la partoprenantoj
ricevis muzikan diskon kiel memoraĵon.

Ordinare la kongresa memoraĵo estas libro. Plurfoje oni eldonis kompaktan diskon kiel memoraĵon. Ili ne estis muzika, sed lerno-materialo por konversacio. Do muzika disko kiel memoraĵo estas senprecedenca. Gratulinda estas la nova provo.

La muzika disko, kun titolo “Ĵunko kantas Esperante” enhavas dek kantojn. Unu el ili estas “Kanto de la kvar sezonoj”. Ĝi estas vaste konata kanto en Japanio. Ĝia dua strofo tekstas:

Jen someron amas vi, kun la forta kor’.

Muĝan ondon vi similas, patro en fortik’

En la kvara strofo ni trovas similan tekston,

ke patrino amas vintron kun larĝa koro.

En la teksto ni vidas antaŭjuĝon, ke viro devas esti forta kaj ino devas esti larĝkora. Tiu antaŭjuĝo estas vaste havata en la mondo.

Tio estas bona, ke iu patro havas fortan koron, kaj iu partino larĝan koron. Sed ĉu ĉiuj patroj devas esti fortaj kaj ĉiuj patrinoj devas esti larĝkoraj? En la mondo ekzistas ankaŭ larĝkoraj patroj kaj fortaj patrinoj. Cetero ni trovas personojn, kiuj estas fortaj kaj samtempe larĝkoraj.

Mi ne asertas, ke oni ne kantu tiun kanton. La melodion de tiu kanto mi mem tiel amas, ke mi senkonscie kantas ĝin de tempo al tempo. Ankaŭ la teksto estas sufiĉe bela. Kaj estas neeviteble, ke en kantoj kaj poemoj oni uzas tiajn stereotipajn esprimojn.

Mi nur deziras, ke oni almenaŭ rimarku la antaŭjuĝon, kiun enhavas tiu kanto. En la reala mondo ni trovas pli da diverseco ol en poemoj.

La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La Movado-La

「いま世界では、北海道のエスペラント運動にできること」を9月19日開催

9月19日(月・祝)13時半～15時半、札幌市民交流プラザで。主催は北海道エスペラント連盟教育部国際KER試験対策班。対象は、原則北海道在住のエスペランティストまたはエスペラントに関心のある市民。申込: ker.sapporo@gmail.com に①氏名、②居住市町村、③電話番号、④メールアドレスを記入して申し込んでください。

- ①基調講演 エスペラント図書館代表 新田隆充氏(1時間): KER試験の山口・沖縄での実施や、エスペラント図書館の活動を通じて見えてきたこと。
- ②ディスカッション「北海道で私たちは何ができるか」(1時間)

終了後、希望者による交流会あり(会場 Rondetaĝo)。

注意事項: 当日、資料代として300円を現地でお持ちください。コロナ感染拡大防止の観点から、申し
2022.09

込み後に主催者判断による人数調整があります。

エスペラント祭(東京)は12月10日

都区内エスペラント会連絡会主催のエスペラント祭(ザメンホフ祭)は、今年もZoomで開催、12月10日土曜日午後の予定。内容などは決定後にお知らせします。
[←原田正範]

「中四国だより」から

エスペラント図書館の新田隆充さんが『メタ認知およびアクティブラーニングに基づくエスペラント語教授法』と題する論文で、エスペラント教育研究に与えられる Premio La Torre 賞を受賞した。

6月25日(土)、30日(木)広島エスペラントセンターで初級講習会。“Hanako lernas Esperanton”と『ドリル式エスペラント入門』。

6月20日(月)、26日(日)、Zoomで中級学習会。“Pasporto al la tuta mondo”で個人的な Bonvolo 家と周囲の人々の話を楽しんだ。

6月19日、Zoomで日曜日例会。1分間パロラー
ドは“Kiel gustumi vermicelon Somenon”につ
いて。“Vojaĝo de Onia, Japana”はオニアの京都、
神戸の旅を楽しく読んだ。

7月の土曜エスペラント会

7月の土曜エス会もオンラインで9日に開催。出
席14人。内4人が海外から参加。「夏はいつ始ま
る?」「運転免許証」「ユリアン・モDESTO著“Ni
Vivos”がエス日対訳版で登場」「神様への手紙(英
語授業の一環で)」「ポーランド紀行(ヘルムとカリ
シュ)」「日本の元首相が撃たれ死亡」等のテーマ
について興味深い発表と議論があり、エスペラント
だけの2時間半があつという間に過ぎた。

土曜エスペラント会は、原則毎月第2土曜日に
開催している。連絡先：山川修一 <shu@gol.com>

[←山川 修一]

第41回日中学生会議キックオフイベント

6月12日(日)にオンライン上で日本側参加者
と日本側実行委員、計28人が集まった。

議論テーマは、入試の過去問から抜粋した。

「1887年、ポーランド人のルドヴィコ・ザメン
ホフは、異なる母国語を持つ人びとの間でコミュ
ニケーションを容易にするために『普遍的な言語』、
エスペラント語を考案しました。<中略>。もしエ
スペラント語が当初の思惑どおり世界中に普及して
いたら、世界は変わっていたでしょうか」

発表は3チーム(4人/1チーム)×2ルームで、
結論は「変化する」というチームもあれば「国際交
流など大きい枠組みに関して、変化しない。地域文
化など小さい枠組みに関して、変化する」と答えた
チームもあり、観点は政治、経済、文化、言語、地
域性等多様だった。

[←後藤 斉]

奈良エスペラント会学習会

奈良エスペラント会は7月2日、13時半から月
1回の学習会を開催した。場所は奈良市立西部公民
館5階第四講座室。出席者は竹森浩俊、本田照美、
中西とし子、田中郁。

内容は初級、中級の2クラスだが、今回は学
習会の前に関西大会記念品の野田淳子さんのCD
La Movado 859



左から本田さん、中西さん、田中さん、机の上に座つ
ているのがロボホン 写真撮影 竹森 浩俊

から数曲を聞くことにした。“Kanto de la kvar
sezonoj”、“Kion postlasis la viro per la morto”、
“La Granda kantado”等。すると歌詞に誤記が結
構あることが分かった。

本田さんのロボホンが“Feliĉan nasktagon”を
歌ったのにはびっくり。

学習会は初級“Gerda malaperis” Ĉapitro 4ま
で。中級は“Ĉu vi parolas Esperante?”無事終了。
学習の前に久々に秋葉邦夫さんが会費を払いに来て
くださった。

[←竹森 浩俊]

「エスペラントの日」のポスター

7月26日の「エスペラントの日」を広報する日
本語版ポスターが、世界エスペラント協会と日本エ
スペラント協会の広報委員会の協力で完成した。下
の図はエスペラント版。

[←北川 郁子]



Saluto al la 70a Kongreso en Kansajo

KITAGAWA Ikuko (prezidanto de JEI)

Karaj kongresanoj,

Reprezentante Japanan Esperanto-Instituton, mi gratulas vin pro la okazigo de la 70-a Kongreso de Esperantistoj en Kansajo. Mi kore dankas la organizantojn, kiuj pene klopodis efektiviĝi ĉi fojan kongreson malgraŭ la ankoraŭ daŭranta pandemio. Mi tute simpatias al la kongresa temo “Ni daŭrigu nian agadon kun saĝo eĉ en la pandemio!”

En septembro la 109a Japana Kongreso okazos en Hachioji, Tokio kun la temo “Nova erao de komunikado kaj Esperanto post kronviroza pandemio”. Mi deziras, ke multaj esperantistoj ankaŭ el Kansajo partoprenu en ĝi, ĉar ankaŭ interreta partopreno eblos.

Aparte de kronviroza pandemio nekredbla katastrofo komenciĝis en la 24a de februaro, nome, la milita invado de Rusia armeo en Ukrainion. Tio vere maltrankviligas nin.

Jam antaŭ cent jaroj Zamenhof diris, ke la ĉefa malamiko de Esperanto estas militema naciismo kaj ke Esperanto tial meritas subtenon jam pro sia “interna ideo”.

Do, kion ni esperantistoj povas fari nun?

S-ro Hori Jasuo, energie kolektas voĉojn de esperantistoj tutmondaj pri la milito en Ukrainio, kaj publikigas ilin ankaŭ en la japana lingvo.

Kaj aliaj esperantistoj, ekzemple, prof. Kimura Goro Christoph, publikigas voĉojn de esperantistoj, loĝantaj en Rusio pere de Fejsbukoj (Facebook). Kaj li informas, ke ekzistas multaj rusoj, kiuj kontraŭas la militon kaj kritikas la registaron, kvankam la rusa registaro terure premas kaj timigas ilin per arestoj aŭ forpeloj de iliaj laborejoj.

Japana Esperanto-Instituto faris deklaron pri la invado de Rusio en Ukrainion en marto, alvokante kontribuon al la help-servo Konto Espero de UEA kaj TEJO. Mi citos parton de la deklaro.

2022.09

Ni havas multajn karajn geamikojn, pere de Esperanto, ne nur en Ukrainio sed ankaŭ en Rusio. Ni devontigas nin helpi al la homoj vunditaj kaj suferantaj, kaj samtempe postulas, ke la vivo kaj libero estu garantiataj al homoj, kiuj kontraŭstaras la militon kaj aspiras pacon. Ni protestas kontraŭ ĉiaj militoj, kiuj estas esence malhumanaj, kaj forte esperas, ke tuj ĉesos la milito kaj senprokraste komenciĝos procedo al paco. (Finas la citaĵo).

En 1906, okaze de la 2-a Universala Kongreso de Esperanto, en Ĝenevo, Zamenhof deklaris: “Nun, kiam en diversaj lokoj de la mondo la batalado inter la gentoj fariĝis tiel kruela, ni, Esperantistoj, devas labori pli energie ol iam”.

Tre bedaŭrinda fakto estas, ke nun, post pli ol cent jaroj de lia deklaro, homoj ankoraŭ daŭrigas militojn produktante terurajn armilojn por mortigi homojn kun uzo de la plej novaj teknologioj. Ni foje sentas nin senfortaj, sed ni ne malesperiĝu, kredante ke homoj povas komunikiĝadi inter si pace.

Mondfama historiisto Yuval Noah Harari, aŭtoro de la libro “Sapiens—Mallonga Historio de Homaro”, japane, 『サピエンス全史』 diris en 2020 jene: Kronviruso ne estas milito. Milito estas la mortigo de homo. Ĝi povas esti venkita per translima kunlaboro kaj solidareco. Post la kronviruso la mondo atingos novan historian ŝtupon, en kiu la homaro estos firme unuigita specio.* Mi pensas, ke tiu ĉi ideo tute harmonias kun la ideo de multaj esperantistoj.

Mi esperas, ke ĉi foja kongreso estos fruktodona por ĉiuj partoprenantoj. Ankaŭ mi antaŭĝojas vidante la buntan, allogan programon. Ni kune ĝuu la kongreson!

Mi dankas vin pro via aŭskulto.

prezidanto de Japana Esperanto-Instituto

KITAGAWA Ikuko

* コロナは戦争ではない。戦争とは人が人を殺すこと。国境越えた協力と連帯によって克服できる。コロナ後の世界は人類が強く団結した種になれた時代と位置づけられるはず。

Unucolulo

rerakontis SIMATANI Takesi

Antaŭ multaj jaroj ie vivis maljunaj geedzoj. Al ili naskiĝis neniu infano. La maljunuloj petis de Dio, ke Li donu al ili infanon eĉ unucolan.

Baldaŭ la maljunulino gravediĝis kaj naskis infanon. La infano estis vere unucola. Pasis jaroj. Li tamen tute ne grandiĝis kaj oni nomis lin Unucolulo.

Iun tagon Unucolulo volis iri al Kioto, la metropolo. Li malsupreniris laŭ rivero en bovlo anstataŭ boato kun manĝobastono anstataŭ remilo kaj kudrilo anstataŭ glavo. En nobel-domo la plej granda en Kioto li petis laboron.

Tro malgranda li ne povis servi fizike. Li tamen plaĉis al fraŭlino de la nobelo kaj ien ajn akompanis ŝin.

Iun tagon survoje Demono atakis la fraŭlinon. Unucolulo elsaltis el ŝia talia zono por savi sian mastrinon. Demono tuj englutis lin. En la stomako Unucolulo tamen pikadis per la kudrilo. Demono ne povis elteni. Ĝi elsputis lin kaj forkuris.

Post la Demono ili trovis magian trezoron nomatan Elprena Maleo. La fraŭlino svingis la maleon kaj elprenis iom post iom da staturato por Unucolulo. Iom post iom li grandiĝis kaj fariĝis bela samurajo. Unucolulo jam granda edziĝis al la fraŭlino. Elprenante ankaŭ frandaĵon kaj trezorojn ili vivis longe en feliĉo.

kultura heredaĵo
tradukita al Esperanto

奥山に
もみぢふみわけ
なく鹿の
声聞くとときぞ
秋はかなしき

(5 猿丸大夫) 秋

La Movado 859

一寸法師

島谷 剛 再話

昔々、あるところに子供のいない、おじいさんとおばあさんがいました。二人は「一寸しかない子供でもかまいませんから子供を恵んでください」と神さまにお願いしました。

するとおばあさんに子供ができました。ところが生まれた子供は本当に身長が一寸しかなかったのです。何年たっても大きくなりませんので、一寸法師(いっすんぼうし)と呼ばれるようになりました。

ある日、一寸法師は、家を出て都の京都へ行きたいと思いました。お椀を舟に、箸を櫂(かい)に、針を刀のかわりにして川を下りました。京都で一歩立派なお屋敷を見つけると、そこで働かせてもらうことにしました。

とはいっても身体(からだ)が小さいので力(ちから)仕事はできません。お嬢さまが一寸法師を気に入って、どこへ行くにも連れてゆくようになりました。

ある日、外出したお嬢さまを鬼が襲いました。お嬢さまの帯のすきまに隠れていた一寸法師は、ご主人様を助けようとしますが、たちまち鬼のみに込まれてしまいました。鬼のお

なかの中で一寸法師はどこかまわず針で刺しました。鬼はたまたま一寸法師を吐き出し、逃げてゆきました。

鬼が逃げた後に打出(うちで)の小槌(こづち)という宝物が残されていました。お嬢さまが小槌を振ると、一振りごとに一寸法師の身体が大きくなり、一寸法師はとうとう立派な武者(むしゅ)になりました。大きくなった一寸法師はお嬢さまと結婚しました。食べ物や財宝も打ち出して、末長く幸せに暮らしたということです。

小倉百人一首 Cent Versis Utaon

tradukis SIMATANI Takesi

En monto trista
sur folioj velkintaj
jen kriĉas cervoj
malgajaj kiel ni mem
en aŭtuno mergintaj

(Sarumaru Dajuu)

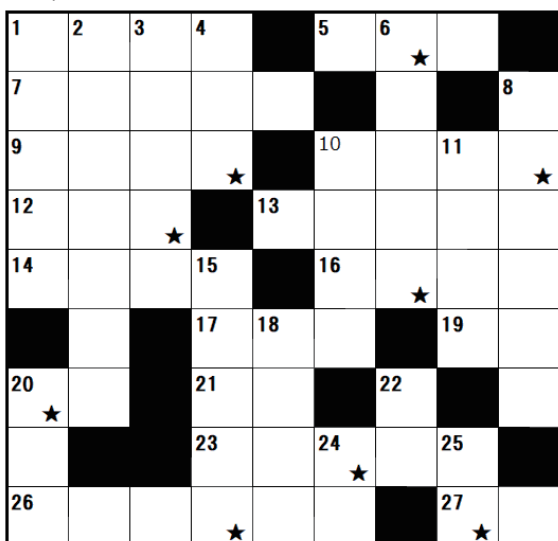
Vortkruca enigmo

TAKEMORI Hirotoŝi

Vicigu adekvate 9 literojn trovitajn en la kvadratetoj kun stelo. Tiam vi akiros nomon de planto, kies frukto estas uzata kiel legomo, estas bongusta kiam peklita, boligita aŭ fritita.

Sendu la trovitan vorton kiel solvon de la enigmo ĝis la 20-a de septembro, paperpoŝte al la oficejo de KLEG, aŭ retroŝte al <lamovado@gmail.com>.

Rimarko: (x) signifas, ke la vorto ne portas finaĵon.



Horizontale: 1. Malgrandaj estaĵoj, kiuj estas malamataj kaj mortigitaj kiel blatoj. (x) 5. Viro kaj ~. 7. Dnipro estas ~o, kiu fluas de Rusio al Ukrainio.(x) 9. Ter~oj ofte okazas en Japanio.(x) 10. ~oj estas kultivitaj en forcejo. (x) 12. Ŝi atendas ~. 13. La ruĝa ~o kiu ligas min kaj vin.(x) 14. Murdo okazis sur la ~a klifo de la izolita insulo.(x) 16. Speco de karto, simbolo reprezentanta la koron. 17. Ni bezonas farunon, sukeron kaj ~jn por fari la kukon. 19. ~a, arĝenta kaj kupra medaloj.(x) 20. Pronomo. (x) 21. ~ago, ~infano, ~fama, ~ulo.(x) 23. Ĉu la totala abolo de nukreaj armiloj estas ~o ? (x) 26. Bonvolu ~i min pri la venonta kongreso.(x) 27. ♪ ~ se multaj mortos, estos dispremitaj,...

2022.09

(La kvietas pasio).(x)

Vertikale: 1. Miaj ~oj doloras kiam ekmalvarmas.(x) 2. Patrino bezonis ~an operacion pro kancero.(x) 3. Edzino ŝatus butikumi en la Kvina ~o en Nov-Jorko.(x) 4. ♪ Borden ~u, Mikael', Haleluja!(x) 6. Oriente, okcidente, sude, kaj ~. 8. ~ faktojn, ne ĉesigas ties ekziston. 10. Matematiko estas malfacila ~. 11. Kastelo en la ~. 15. Ni manĝis ~n vespermanĝe en la 2-a de oktobro. 18. ~o facile rompiĝas.(x) 20. Frato volas ~ aŭton en abonservo. 22. Du~o, tri~o, kvar~o. (x) 24. Unuo de elektra rezisto.(x) 25. Ne ĵetu rubon ~n.(x)

La solvo al la julia enigmo: SUNFLORO

La ĝustan solvon donis 12 legantoj:

CA,
濱田 國貞、
Sayuri、
島津 泰子、
TADA、
本田 照美、
森川 和徳、
松川 まきこ、
平井 倭佐子、
Grebo、
にし のりこ、
武藤 たつこ



楽しい作文教室 (133) 成績

9人の方から応募がありました。()内は留意事項です。

うん、良いね: Lumo, CA, Ivajo.

良いね: ikona(①時制), Haveno, Celejo,

Eiko(① forlasi), Drako(① longe の語順),

Jasuko(① ĉi tien ④ prefari).

Mikspoto (当欄は敬称略)

★『新日本歌人』8月号に堀泰雄の短歌7首「青空を 見ることもなく 死ぬのだろうか 製鉄所の 地下影 ゆらぎいる」などが選者による注目歌として取り上げられた。

また堀泰雄がエスペラントで集めて公開している「ウクライナ戦争 世界の声」から、12人の声が引用され2ページ見開きで紹介された。

[←堀 泰雄]

★7月16日放送のNHK番組 Dear にっぽん「祈りのチェロ 支える人々 ～ウクライナの母と娘～」。ウクライナから東京・杉並区に避難してきたチェロ奏者テチャーナさんとその娘さんを支援する波多野宏さん。テチャーナの情報を自治会の回覧板で近所の方に知らせた。回覧板の書面に「言語：ウクライナ、ロシア、イタリア、英語、エスペラント語」と記載があった。

[←竹森 浩俊]

★岩波のPR誌『図書』7月号で斎藤真理子の文章の中に「吉沢久子さんが速記者としてはたらいいてい

楽しい作文教室11月号課題(9月20日締切)

- ①彼は例会で次のように提案した。
- ②ご存じの通り次の大会は姫路で開催されます。
- ③開催準備のために実行委員会が必要です。
- ④この会議で実行委員会役員を選出しましょう。(ヒント) 提案 propono、委員会 komitato. jen. elekti を調べましょう。

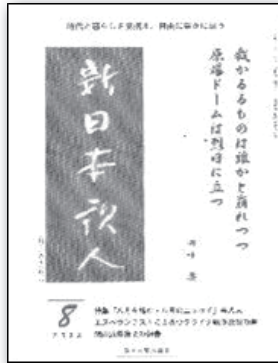
日本語の原文の内容が、相手にはっきり伝わるように考えて訳してください。

送付先：

[郵送] 〒 674-0092 明石市二見町東二見 515-1-811 塚本 猛

[電子メール] c_tak@esperanto.ne.jp
(件名に「作文」の文字を入れてください)

添削は受け付けておりませんのでご了承ください。



たことは知っていたが、エスペラント語を勉強したことがあったと日記を読んで初めて知った」と。『吉沢久子、27歳の空襲日記』(文春文庫)。

[←濱田 國貞]

第109回日本エスペラント大会

9月23日(金・祝)、24日(土)、25日(日)
八王子市学園都市センター

第10回アジア・オセアニア大会

11月3日(木)～6日(日)
韓国、釜山

第108回世界エスペラント大会

2023年7月29日(土)～8月5日(土)
イタリア、トリノ

KLEG 事務局だより

★第70回関西エスペラント大会のKLEG書店の全体売上げは前月号で報告しましたが、今月は、よく売れた書籍をご紹介します。

“Promenado en Hiroshima” 5冊。
あとは次の書籍が2冊ずつ売れました。

『エロシェンコのシベリヤものがたり』

『日エス現代用語集(第3版)』

『エスペラントと平和の条件』

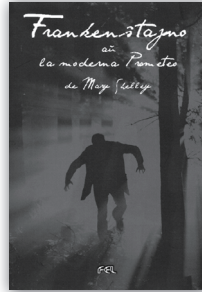
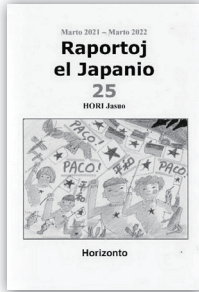
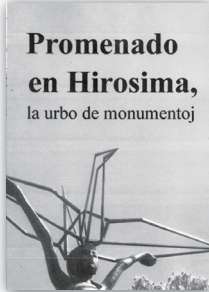
“Ekzercoj de Zamenhof”

なお、大会記念品になったCD、“Junko kantas Esperante”は、ホール前の販売もあわせて11枚売れました。

KLEG後援会へのご寄付(2022年7月、敬称略)

野々村 豊子	30,000 円
匿名	5,000 円
谷川 弘	1,000 円
平井 倭佐子	500 円

ご支援、ありがとうございます。



★ 新刊・新着 ★

Junko kantas Esperante 1800円
野田淳子がエスペラントで歌う。四季のうた、今日の日はさようなら、死んだ男の残したものはなど全10曲。第70回関西エスペラント大会記念品。

Promenado en Hirosima, la urbo de monumentoj 1200円
碑のまち、ヒロシマを歩く—犠牲者を悼み平和を願う碑を広島エスペラント会が案内。写真も多く、街歩きに好適。A5版、71p.

Raportoj el Japanio 25 1500円
堀泰雄の「報告」最新刊。ウクライナ情勢、福島や足尾の訪問記、島崎敏一の手紙、世界のトイレ見聞録など内容は多彩。A5版、224p.

Frankenŝtajno aŭ moderna Prometeo 2100円
メアリー・シェリーの「フランケンシュタイン」(Klivo Lendon 訳)。映像化作品も数多いが原作はこれ。A5版、186p.

Lerni e-legante 3100円
ŝtupoj al pli vasta vortprovizo—36章のテーマに沿って1400の単語を学ぶ。写真やイラストも豊富。グループにおすすめ。B5版、172p.

La florejo 3200円
もし汝が他人の苦痛を悲しまぬなら／何で人たるの名に値しよう—ペルシア文学の傑作サアディーの「薔薇園」。東西双書60巻。A5版、234p.

La malgranda fantomo 1400円
お城に住む小さなおばけは昼間の世界をのぞいてみたくてたまらない。『大どろぼうホッツェンプロッ

ツ』の作者プロイスラーの作品。A5版、112p.

★ **日本エスペラント図書刊行会の本** ★
Lingvo Stilo Formo 1000円
Kalocsayによるエスペラント論集の増補復刻版(原版は1970年ピラート社刊)。“Esperanta vortfarado” “La evoluo de nia poezia lingvo” など。

NARA, la eksĉefurbo en malproksimaj tagoj 1800円
奈良エスペラント会による古都奈良の案内書。原始から現代までの奈良の歴史を点描。

Kiel verki hajkon en Esperanto 500円
広高正昭「エスペラント俳句の作り方」第2刷。hajkoの作り方、秀句鑑賞、自選100句と季語の索引。

エスペラント文法の散歩道 [改訂新版] 1000円
小西岳の文法論「kaj と sed」「la の用法」ほか

ご注文は郵便、ファクス、電子メールで。送料は実費。現品と一緒に請求書を送ります。支払いは振替口座で。

編集ノート



★第70回関西エスペラント大会への北川郁子 JEI 理事長のあいさつを掲載しました。エスペラントの歴史や現在の状況を反映していて、大会に参加されなかった方も読んでいただきたいと思います。

★運動記事不足です。予告・報告の原稿をお願いします。カナダの世界大会に参加された方は体験記をご投稿ください。(相川 節子)

発行所：ラ・モバード社 編集：相川 節子 発行人：染川 隆俊 定価280円 送料63円 1年3800円 送料共
本局：一般社団法人 関西エスペラント連盟内 561-0802 豊中市曾根東町1-11-46-204
電話 (06) 6841-1928 ファクス専用 (06) 6841-1955 電子メール：esperanto@kleg.org
振替口座 00960-1-60436 「一般社団法人 関西エスペラント連盟」 ホームページ：http://www.kleg.org
九州支局：九州エスペラント連盟内 859-0407 長崎県諫早市多良見町シーサイド2-190 盛脇保昌方 電話 (0957)43-4352
中国四国支局：中国四国エスペラント連盟内 771-0371 徳島県鳴門市北灘町櫛木字観音面14-1 木谷 奉子方 電話 (088)688-1098